

蔵王町 蔵王町立平沢小学校(総合的な学習の時間)「福祉体験」

○市町名 蔵王町

○学校名 蔵王町立平沢小学校

○期 日 令和7年10月29日（水）

○内 容 福祉について体験しよう

○講 師

蔵王町社会福祉協議会 大沼 卓也 氏

○指導補助

蔵王町社会福祉協議会 畠山千賀子 氏

小野 聰 氏

関根 洋平 氏

特別養護老人ホーム楽園が丘

奥村 洋士 氏

在宅複合型施設ざおうの杜あおそ館

川村 敬 氏

放課後等デイサービス ココシフレ蔵王

平間 嘉 氏



○児童の声

- 実際に車いすに乗って体験することで、操作も分かったし、実際にどのように補助すればいいかも分かり、とても勉強になりました。
- 車いすに乗っていると、意外に怖いことが分かりました。補助する人の声掛けがとても大事だということが分かりました。

- ミニコーンを避けながら車いすを操作するのが難しかった。
- 車いすに乗っている人がいたら助けたいという気持ちはあるけれど、もしかしたらその人にとっては自分でできること（困っていることはない）かもしれません。車いすの方ができることかどうか、ありがた迷惑にならないように、相手の気持ちを考えて行動したいです。
- 車いすを操作していると、腕が痛くなってきて、とても大変でした。
- 知り合いが乗っている車いすみたいに電動のものもあるから、たくさんの種類の車いすがあるのだなと思いました。
- 車いすのスポーツ等についても調べてみたいと思いました。



○講師から

福祉教育学習では、キャップハンディ体験を通して、福祉について考えてもらっています。「福祉」を言葉で説明しても理解が難しい面もあるため、実際の体験を通じて、「人」と「人」との関わりの中で「思いやりの心」や「気付きの心」など相手の気持ちを少しでも感じてもらうとともに、自分自身の日常生活の中で、福祉は身近にあるものだと思ってもらうきっかけとなればうれしく思います。

(蔵王町社会福祉協議会 大沼 卓也)

ているのか、また反対に、補助される側も体験し、補助の仕方によっては不安な気持ちになってしまふことも感じることができたと思います。

今回の体験により、相手の気持ちを考えて行動することの大切さに改めて気付いた児童もいたと思います。人によって困り感は異なると思いますが、困っている人を見かけたときに、自然と声を掛けたり寄り添ったりできるような児童を育んでいきたいと思います。

「ふだんの くらしの しあわせ」を目指して。

(教諭 大沼 貴史)



○教職員の声

今回は、お忙しい中、多くの方々に御来校・御指導いただきましてありがとうございました。今回の体験を通して、普段見ている児童の姿とは、またちょっと違う姿を見る事ができました。実際に児童自身が車いすに乗ることで、車いすの方がどのようなことに対する困って不便さを感じ

○大河原教育事務所から

学校と地域が連携・協働し、地域の子供たちのために主体的に活動している皆様の思いが、子供たちの学びや気付きへつながるすばらしい機会だと感じました。